

当院は下記の調査を実施しています

記

課題名 小児喘息重症度分布と治療の経年推移に関する多施設調査

調査の目的・意義

小児気管支喘息は、この 20 年間で大きく変化した小児慢性疾患の一つであり、喘息発作死、救急受診、緊急入院、長期入院患者数は全て大きく減少し、治療の場は、入院治療から外来治療に移行しました。こうした背景には、吸入ステロイド薬、ロイコトリエン受容体拮抗薬などの抗炎症治療薬の役割、治療管理ガイドラインの普及が大きいことは世界的に評価されています。

日本小児アレルギー学会疫学委員会では、経年的に、同一の信頼できる喘息専門医療機関における小児気管支喘息の患者さんの喘息重症度分布、ステロイド依存性患児数(割合)の動向を知り、喘息治療の診療活動の検討に役立てることを目的として、2006 年より調査を継続してきました。今年度も調査を行い、変遷を知ることを目的としております。

調査の方法

- 当センターにて 2020 年 10 月 26 日(月)から 11 月 1 日(日)までに小児気管支喘息と診断された患者さんの下記の(研究・調査)項目を抽出し、個人情報については漏洩しないように匿名化し、研究代表施設である埼玉医科大学病院(研究責任者:板澤寿子)に提供します。個人識別表は当センターで厳重に保管します。研究代表施設では小児喘息重症度分布と治療の経年推移について(研究・調査)を行います。(研究・調査)期間は 1 年間です。

- (研究・調査)項目

年齢、外来・入院別、性別、発作頻度、治療ステップ、過去 1 か月のテオフィリン経口投与、過去 1 か月の長時間作用型 2 刺激薬、過去 1 か月の経口ステロイド投与、過去 1 か月の吸入ステロイド、過去 1 か月のロイコトリエン受容体拮抗薬の使用状況等

患者さんの氏名など、本人を特定出来る一切の個人情報は調査対象ではなく、個人情報は保守されます。

調査実施機関

国立成育医療研究センター（大矢幸弘）
医療法人高橋医院なすのがはらクリニック（飯野 晃）
社会福祉法人希望の家附属北関東アレルギー研究所（荒川 浩一）
国立病院機構福岡病院（小田嶋 博）
国立病院機構福岡病院（西間 三馨）
昭和大学医学部小児科学講座（今井 孝成）
滋賀県立小児保健医療センター小児科（楠 隆）
国立病院機構三重病院（長尾 みづほ）
なすこどもクリニック（福田 啓伸）
国立病院機構名古屋医療センター（二村 昌樹）
東京都立小児総合医療センター（吉田 幸一）
村立東海病院小児科（松井 猛彦）

結果の公表方法

国立成育医療研究センター（HPにて概要を掲載
<http://www.ncchd.go.jp/>）
協力施設の（HPにて概要を掲載）

本調査に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。ご希望があれば、他の調査対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。また、情報が当該調査に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には調査対象としないので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

調査への参加を希望しない場合には、お手数ですが、2021年5月30日までに、下記の調査責任者へご連絡ください。

調査責任者 国立成育医療研究センター・アレルギー科
氏名：大矢 幸弘
：03-5494-7120（内7021）

研究代表者 埼玉医科大学病院 小児科
(日本小児アレルギー学会疫学委員会委員
氏名：板澤 寿子)
:03-6806-0203